

年頭のごあいさつ

林産試験場長 岩田 聡

新年あけましておめでとうございます。2023年の年頭にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

旧年中は多くのお世話になり厚くお礼申し上げます。2022年も世界的にも日本社会においても木材産業にとっても激動の一年となりました。新型コロナウイルスの影響も3年目となり、今なお続いています。それでもこのウイルスとのつきあい方というのがなんとなくできつつあり、マスクに手洗いという相変わらずの感染防止対策に、「これぐらいはよいのではないか」というような形でじわじわと元に戻ろうとしているところです。



林産試験場を訪れる方も徐々に増えてきており、その中で、ある高校生から見学の感想をいただきました。それは、AIが訪問先として林産試験場を選んだので見学したところよかったというような内容で、どうやら高校生が就職活動サイト上に設定されたアンケートに回答すると、登録されている旭川市内の企業・団体の中から本人の興味に合う訪問先を選んで提示してくれるようなのです。サイトの運営会社からは当场に事前に登録の依頼があり、200近い質問に答えています。AIはそれをもとにしながら、こんどは高校生が答えたアンケート内容を分析して「林産試験場を訪れるが吉」とおみくじのように診断するのです。AIの判断がよいのか林産試験場の案内がよいのかわかりませんが、デジタル社会の不思議さを感じます。

林産試験場の来場者数は、一般的な視察・見学のほか、企業の方々が打ち合わせで来場されたあとに施設見学されることも含め、コロナ禍の昨年度で300人以上、今年度はあと3ヶ月残してすでに500人以上になっています。来場者の方々の興味は多様で、「研究機関というけれどそもそも研究とはどういうものか」「素朴に木材のことを知りたい」「CLTパビリオンが見たい」「北森カレッジの見学のついでに」「もっと専門的に木材について意見交換をして可能であれば事業化を」など視点はさまざまです。当场としても、なるべく来場者の皆さんの目的や興味に沿ったトピックを選び、たとえ話をまじえたわかりやすい説明を工夫するなどして、苦労しながらも対応しているところです。

林産試験場を訪問してよかった、おもしろかった、気づきや学びがあったとだけ思っていただけでは、今まで思い込んできた木材の常識を覆すような意外性や、こんな技術を使って新しいことが開発されたのだという驚きにあると思います。木材のもつ特性やしぐみをお知らせしつつ、その特性を活かした技術開発に至るまでの時として意外な経路により、来場者の方々に未知なる木材に関する事象が「わかる」というものにストーンと落ちていく感覚を得てもらえれば説明者としてもうれしい限りです。

この林産試験場の魅力の源泉を維持・向上させていくためには、新たな価値を生み出す研究技術開発を続けていかなければなりません。北海道の森林資源は、今はその経済的価値は低位となる面はありつつも、量を備えていることは間違いなく、それを主要な木材の需要先である住宅をはじめとした建築分野が求めるものに対応させていくことが必要です。また、ゼロカーボン社会に向けて二酸化炭素を固定した木材の新しい利用を生み出す取り組みも求められます。林産試験場としても、おもしろいと思える研究技術開発を一つ一つ積み重ねながら、新しい価値を生み出し、北海道の将来につなげていきたいと思えます。

本年も林産試験場をよろしく願い申し上げます。



フィールドスタディの一環で
林産試験場を訪れた高校生の皆さん